

期する空想の餘りに大なるが故なり

▲如何にして家庭を愉快ならしめんか、先づ一家の中より秘密といふことを排除せまし。お父あんに秘密、妻君に秘密、お婆さんに秘密、秘密といふこと既に一の罪惡あり。猜忌之より生じ、邪推之より來り、怨恨嫉妬之より出で、遂に癒すべからざる感情の衝突は、更に大なる罪惡を生むに至らんなり。あはれ一家の中より總べての秘密を取り去らんには、融然として春の海の如からん。さるにても 何處の臺所にも、忌むべき骸骨のあるは、免れ難き事よ。

▲我國の家庭に入れたきものは、音樂（殊に西洋音樂）等美術の思想、家族向運動（例令ばピンボンの類）善良なる書物の論議など……

▲夫の世に時めくに當りては、あはれ いみじき

貴夫人よと 世にもてはやされし妻の、夫逝きて後は、一向に凡庸の婦女子と異なることなきを見ることの多きこそゆゝしけれ。

▲聖パウロと呼べる人コリントの人に書を送りて曰く、不信なる夫は妻によりて潔くなり、不信なる妻は夫に由りて潔くなると。

乳母の選み方につきて

原 米 女

●古昔から名を歴史に止めた人には、父母の感化によらないものは尠いのであります、否無位であります。

●有名な露の文豪の、トルストイ伯爵自身は貴族で、あがりなざるから、什麼に良き乳母でも、保母

教師でも尋ねて得られぬことがないのでせうが、伯お二方共、忙しい中から、ことにお子さんの教育に、力を入れなさつて、萬事御自身でなされるさうな。

●して其の田意の周到なることは實に驚く位で、お子さんの教育に就ては決して、他人の差出口等を許されず、またお子さんを漫に他人には交はらしめられないさうな。

●或夜のことであつた、伯は八時頃「ソファー」にお身を横になさつて「ア、漸く我が時間が来た」とおつしやつたと、何と些細のことまでに氣をくばつて居らしやることでせう。

●これはお子さんのお寝みの時が八時だから、それまでの伯御自身の一擧手なりとも一投足もお子さんを誤らしては、いけないと細心注意なさつて

居なさるからで、その注視者たる、お子さん方が皆お寝みなさつたから、さう謂ひなさつたのであらう、なんと敬慕すべきことではありませんか。

●どなたも愛兒の、立身出世を望まると、お方はかくやりたいものであります。

●右の様に、家庭教育とは、直接に教へ込むことばかりでなく、教へず語らざるの間に、以心傳心父母の一擧一動で、愛兒を感化せしめて、其愛兒の徳を養ひ、智識を擴め、品位を高むるものでありますから、世の父たり母たる人は、是非とも愛兒の教育は自身でなさつて頂きたいものです。

●然るに世の中には随分と乳母を置いて、大切な愛兒の教育をそれに任せ放しで、御自分は呑氣に火鉢の前で小説なんかを読んで居らしやる方もあります。

●尤も乳母にお任せになつたのであれば、愛兒はそれに任してもよろしいが、夫ならば其の乳母の行狀や身体を十分と監視せねばならぬのであります。

●然るに世の中には、乳母を見る事が頗る冷淡で乳母が愛兒の手足に傷つくる様な、ひどい不注意さいなさないときは、假令玉の如き愛兒が日々衰弱しやうが、又生涯病身で終らなければならぬやうにならうが、又其精神上道徳上に乳母の心掛がどれ程の影響を與へることにならうが、一向無頓着な方があります、何と間違つた考でありますねか。

●家事の都合とか、病身の爲めとか種々の事條の爲に乳母を置きます事は致方がない次第でせう。が、置きなざるには、大切なる愛兒を托すること

でありますから、とくと其の乳母とせんとする人の經歷なり、身元なり、又躰格なり、遺傳の有無な事を調べた上でなくては、後でとんだ悔を残すことがあります。

●で、妾は今こゝに乳母を選ぶについての心得べきことを一つ二つ述べて、皆様の御参考になへませう、若し一つでも取り所がありますれば望外の幸ひであります。

一、家庭を知ること。申すまでもなく、家庭の感化といふものは大したものので、今度雇ふとする乳母の心性も、幾部それによつて知ることが出来ます。尤も、中には家庭の有様と全く反對な心掛けのものもありませうが、夫はごく／＼少いのです。ですから、先づ其乳母の家庭については、例令ば父母共に實のものであるか、其の性行は如何であ

らうか、其兄弟姉妹等の身の上は如何、其生活の度合は如何等は主として調べたいのであります。

二、職業を知ること。これは詮じつめると家庭を知るといふ内に入るでせうが、妾はことにこの項を起しましたのは、其の職業の如何は殊に乳母の心性に大きな關係を持ちまして愛兒の教養に影響することが、最も少くないからであります。例へば、一般に鳥獸の屠殺を業とする人には殘酷なものが多く、園藝などに従事する人の性質は温順な様な譯です。

三、性質の良否を調べること。行爲が不良であれば心性の不良なのは勿論ですが、如何に上手に、奇麗に、しとやかに上部を飾つても、心性不良のものは決して雇入れてはなりません。心性不良な者は、知らず識らずの中に、悪感化を及ぼして

愛兒の天性を害することが、中々甚しいのであります。ですから、傲慢とか卑屈とか若くは嫉妬疑念の心が深いか若しくは、非常に自利的で人の利害を顧みないとかといふ様な性質のものは到底乳母たる資格はありませぬ。

四、感情の厚薄を調べること。勿論情の無いものといつては女子にはありませんが、情の厚いと薄いのとは亦大變愛兒に感化を及ぼすものであります。餘りに感情的だと、所謂愛に溺れて間々、間違のことを致出し、それかといつて餘りに感情の冷かなものは愛兒の取扱ひが如何にも殘酷になります。

五、言語舉動に注意すること。よしや心性は善良であらうとも、言語舉動の正しくないものや乳暴のものを置いてはいけません。又愚圖々々して事

をさき／＼しないものとか、軽躁のものとか、野鄙のものなどは無論資格外です。幼兒は何事も模倣するもので其乳母の言語舉動は直接に幼兒の言語舉動を左右するものでありますから、敏捷活潑で併も優美のものを求める様にせねばなりません。夫から言語は明了であるか、饒舌ではなからうか、又滯滞しはしないか、吃訥或は野鄙ではなからうか復、訛言はありはしないかといふこと、之等にも十分心を注かねばなりません。

六、躰質に留意すべきこと、躰質の孱弱者又はいろ／＼の遺傳病を持つて居るもの等は是非とも避くべきことは明であります。

七、其の他尙如何様な習慣、癖があるかも取調べねばなりません、それは習慣とか癖とかの中には身の毛も悚つ様な恐るべきものがあります。

二十四

例へば怠惰、不潔、粗漏、背約、奢侈、貪婪、放恣、など厭ふべき習慣を持つて居るものもあり又憤怒し易きとか、執拗、滑稽、嘲笑などの様な嫌ふべき癖を持つて居るものもありますからこれ等の點も、とくと注意しなければなりません。

尙十分を望みますと、智識の度合も知り、育兒經驗の有無も取調べ、本人の經歷も深く調べたいのであります。

●以上はたゞ考へ付いたまゝを、順序もなく、消極的方面から觀察して即ち良くない方面のみを記したのであります。併し其の缺點といふものも人常に有り通しのものでありますので、時折に其の缺點なる持病を顯はすのですから、さて雇入になるには、こゝに記しました反面の積極的方面即ちよい方からも觀察しなければなりません。

●かく乳母の雇入をなすには並大抵のものではありませぬ。かようにして乳母を雇ひ入れまして、さて雇入れたからには、之れを家族の一人として好く取扱はねばなりません。

小兒の感化

桑田敏子

光子さんは今年四才で入らツしやいました、ついでに近しいものですから遊びにお出でるので、私といは大の仲好で有ります、私この頃遊びに参りましたら、茶の間には光子さんたゞ一人で入らツしやいました、私を見るやすぐ、お行儀を正してお遊びを遊はすので、そのマア、かはゆい顔と申しては、私とても筆にはうつつされませぬ、そし

て母さまがお出に成りますと母さまの下へ、ちやんとすはつておいでるので、其の様子は五六才位で。面白い事を時々おツしやつては皆様を、大笑遊はすのです、坊ちやまは七才で、お出でましたのが、やつぱりよいお子でをして活潑で入らツしやります、母さまのお出でた時には、お二人で争などはなさらぬそう、實に感じ入りますこれも母さまが平素の教育のよいからで、一つは母さまが御老人方をはじめ、皆様へたいしての行爲によるので。

一家族不和なる家庭は、人生不幸の極で有りますかゝる家庭に在る人は、顔容正しからずで、言語をはじめ、なす事すること皆々片意地にして、お子方は強情な、そして無邪氣なかはゆい處がないのですそればかりでなく、來客にまで不快の感